

令和 3 年度小中一貫教育推進計画書

中 学 校 区 名	宮原中学校区
代 表 者 所 属 校	呉市立宮原小学校
校 長 氏 名	小竹 術

1 目指す児童生徒像

宮原への誇りをもち、自分を磨き、よりよく生きようとする児童生徒

2 育成を目指す資質・能力

資 質・能 力 設 定 した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
	①知識・技能	②論理的思考力・ 判断力・表現力	③主体性・協働性	④自尊心・向上心	⑤郷土愛
後 期	新たに獲得した知識や情報を関連付けたり再構成したりして、さまざまな場面で生きて働くための基本的な知識・技能を身に付けている。	精査した情報を関連付けたり再構成したりして課題解決へ向けた考えを形成し、根拠を明確にして適切に表現することができる。	新たな価値の創造へ向けて対象に主体的に働きかけ、他者を尊重しながら見通しをもって課題を解決することができる。	自分の力を信じ、広い視野をもち、社会のために貢献しようとして行動することができる。	地域社会の一員としての自覚をもって主体的に関わり、地域に愛着と誇りをもつことができる。
中 期	新たな知識や情報を関係付けたり組み合わせたりして、さまざまな場面で活用するための基本的な知識・技能を身に付けている。	必要な情報を比較・関係付け・整理分析して課題解決について論理的に考え、根拠を明確にして表現することができる。	対象に積極的に働きかけ、他者の考えを受け入れながら課題を解決することができる。	自分の特性に気付き、目標を自覚して自分を高めようとしてすることができる。	地域の歴史や伝統・文化を知ってつながりを大切にし、地域に愛着をもつことができる。
前 期	新しい知識や情報をさまざまな場面で活かすための基本的な知識・技能を身に付けている。	複数の情報を比較・分類・整理して課題について筋道立てて考え、理由を明確にして説明することができる。	身の回りの人・もの・ことに積極的に関わり、協力しながら課題を解決することができる。	自分の良さや可能性に気付き、目標をもってがんばることができる。	地域の良さや特色を知って積極的に関わり、地域を好きになることができる。
	新しい知識や情報を他の場面で活かすための基本的な知識・技能を身に付けている。	身の回りの事柄についての気付きをもとに、課題について順序良く考え、理由を挙げて説明することができる。	身近な人・もの・ことに進んで関わり、意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	自分の良さに気付き、目標をもってがんばることができる。	地域の良さを知り、地域を好きになることができる。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現と自己指導力の育成
～「考える授業」づくりと積極的な生徒指導を通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和2年度、本中学校区では、教科の特性を生かした「考える授業づくり」の研究（①思考を深めるための工夫、②自分の考えと、その根拠を明確にした表現の工夫）を通して、論理的に考え、思考を深める児童の育成を目指してきた。①思考を深めるための工夫としては、課題設定や中心発問の工夫や自己の変容に気づく振り返りの工夫を行ってきた。②自分の考えとその根拠を明確にした表現の工夫においては、各教科における「論理的な思考」の定義づけを行ったり、各教科の特性を生かした表現の具体化を図ったりした。

また、学びの基盤づくりに向けた取組では、①一貫した生徒指導の取組（「学びのルール」・挨拶の徹底等）、②体験活動・地域貢献活動を通じた自己肯定感・自己有用感を高める取組、③家庭を巻き込んだ生活習慣（生活リズム改善・電子メディアコントロール・家庭学習等）の確立に向けた取組を行うことで、主体的な生活習慣づくりを図ってきた。

《中学校区における児童生徒の意識調査による分析》

授業づくりにおいては、評価項目5「授業では、情報（学習したこと・調べたこと）を比べたり、分類したり、関連を考えたりして、何が分かるのかを考えています。」では、肯定的な回答が82%となっており、一定の成果がみられたと考えられる。教科によっては振り返りを行う時、分かったことと考えたこと（事実と感想）を分けて記述したり、字数制限等を行ったりして、振り返りの工夫を行ったものもあった。しかし、評価項目2「授業では、自分の考えと、その理由を明らかにして表現しています。」については肯定的な回答が68%にとどまっており、理由を明確にして「表現すること」に課題がみられる。

また、学びの基盤づくりにおいては、「学びのルール」の確立に係る質問：評価項目18では86%、自己肯定感に係る質問：評価項目14では88%、家庭を巻き込んだ生活習慣の確立に係る質問：評価項目21では88%の肯定的な回答であり、取組による一定の成果がみられたといえる。しかし、自己有用感の育成に係る質問：評価項目15では78%にとどまっており、コロナ禍のため地域貢献活動が中止となったこと等が影響しており、取組の継続が必要であると考えられる。

以上のことから、令和3年度は、理由を明確にして思考を深めている児童生徒の姿をより具体化したりタブレット等のICT機器を効果的に活用したりして、教科の特性を生かした「考える授業づくり」の研究（①思考を深めるための授業構成〔思考の過程〕、②児童生徒の主体的な思考を促し高める発問）を通して、論理的に考え、思考を深める児童生徒の育成を目指していきたい。

また、新型コロナウイルス感染症対策を行い、地域貢献活動等を可能な限り行い、学びの基盤づくりの改善を図りたい。

4 研究内容：あらゆる教育活動に機能させる生徒指導の3機能

・自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する。

(1) 「考える授業づくり」に向けた取組

○思考を深めるための授業構成（思考の過程）

- ①児童生徒が考えたいくなる課題の設定
- ②児童生徒が考え、その考えを表出する場の設定
- ③児童生徒が、考えの変容（成長）を自覚する振り返り

○児童生徒の主体的な思考を促し高める発問

- ・整理分析や学習のまとめ・再構成、振り返りを促す発問
- ・各教科等における思考を働かせている児童生徒の姿の想定

○タブレット等のICT機器の効果的な活用

- ・教材等提示の工夫
- ・思考ツールの活用

(2) 積極的な生徒指導に向けた取組

- 一貫した生徒指導の取組（「学びのルール」・立ち止まって挨拶の徹底）
- 自己肯定感・自己有用感を高める取組の工夫
（異学年グループによる体験活動・地域貢献活動の充実，児童生徒代表者会「宮原子どもサミット」の取組）
- 家庭を巻き込んだ生活習慣の確立
（生活リズム改善「早寝・早起き・朝ご飯習慣」「家庭学習習慣」食育推進，体力向上，電子メディアコントロールの取組）

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業

宮原中学校から，小学校2校（坪内小学校及び宮原小学校）へ乗り入れ授業を実施
第6学年へ 英語（1），国語（1），数学（1）で，各校3時間（計6時間）

イ 小学校教科担任制等

各小学校の教員の専門性を生かした授業を交流することにより，学力向上や生徒指導の一貫性を図る。

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- 児童生徒の教科学力・学習意欲の向上，資質・能力の高まり（論理的思考力・判断力・表現力 学びに向かう人間性等）
- 児童生徒の自己肯定感，自己有用感，郷土愛，向上心の高まり，自己指導能力の向上と生徒指導上の諸問題の減少
- 教師の授業力及び生徒指導の3機能を生かした生徒指導力の向上
- 家庭の教育力の向上

(2) 検証方法

- 各調査の結果分析
 - ・全国規模の学力調査
 - ・児童生徒の表現（ノート，ワークシート，成果物，行動等）
 - ・児童生徒，保護者へのアンケートによる意識調査及び感想等，教職員意識調査

7 推進計画

月	日	曜日	研修内容
4	27	火	第一回小中運営委員会
4	30	金	第一回宮原子どもサミット

6	7	月	第一回小中合同研修会
6	25	金	第一回小中合同授業研究 (宮原中学校)
7	14	水	第二回宮原子どもサミット
7	29	木	第二回小中合同運営委員会
8	4	水	第二回小中合同研修会
9	28	火	第二回小中合同授業研究 (坪内小学校・総合的な学習の時間)
10	29	金	地域公開参観日
12	15	水	第三回宮原子どもサミット
1	21	金	第三回小中合同授業研究 (宮原小学校・総合的な学習の時間)
2	9	水	第三回小中合同研修会
2	21	月	第三回小中合同運営委員会
3	7	月	第四回宮原子どもサミット

8 その他

呉市教育委員会以外の指導・助言者

○安田女子大学教授 朝倉 淳 先生